

Vol.3 矯正の方法ってワイヤーの他にもあるって聞いたけど…

歯を動かすためには、なんらかの「装置」が必要。

これが歯科矯正治療の大きな特徴であり、なおかつ欠点でもあります。

そんな装置ですが、すべてを挙げると100を超える種類があります……。

矯正装置をジャンル分けするには色々な方法があるのですが、簡略化して説明すると、

- 1) 可撤（取外し）式か、固定式か
- 2) 歯を動かす装置か、アゴ（の骨）に作用する装置か
- 3) 治療用装置か、保定（安定させる期間）の装置か

などに分かれます。

幼児～学童期、思春期にかけての矯正治療では、アゴの大きさや成長方向のコントロールが重要になるため、成人とは違った様々なタイプの装置が使われます。

一般的には、ヘッドギヤやフェイスマスクを用いた上顎前方牽引、着脱可能なプレート（床装置とも呼ばれる）、必要に応じ部分的なワイヤーによる治療が行われる事が多く、また悪習癖（指しゃぶり、舌癖や片咀嚼、頬杖など）のコントロールも、テキストなどを用いて盛んに行われます。

永久歯列期（成人矯正期）では、歯の移動による治療がメインになります。

装置は、ワイヤーを用いるもの（表側と裏側あり）とマウスピースを用いるもの（取外し可能）に大別されます。

また、補助装置として近年はTAD（一時的にスクリューネジなどを歯肉等に埋入する）や、バンドを用いた固定装置などを併用する場合があります。

いずれの場合も、対象となる方の歯ならびや症状などにより、複数の中から装置のタイプを選択できる場合と、そうでない場合とがあります。

さて、実際にはどのタイプの装置がベストマッチなのでしょう？

詳細は矯正歯科医とじっくり相談されることをおすすめ致します。

医療法人社団オーラルデザイン
オーラルデザイン下北沢・矯正歯科
院長（歯学博士）
任 剛一

TEL 03-6303-0061

URL:www.od-kyousei.com

MAIL:info@od-kyousei.com